

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-206202

(P2015-206202A)

(43) 公開日 平成27年11月19日(2015.11.19)

(51) Int.Cl.  
E05B 65/08 (2006.01)

F I  
E O 5 B 65/08

テーマコード (参考)

G

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 23 頁)

(21) 出願番号 特願2014-87181 (P2014-87181)  
(22) 出願日 平成26年4月21日 (2014.4.21)

(71) 出願人 592062725  
株式会社システックキョーワ  
大阪府大阪市平野区平野北1丁目5番19号  
(74) 代理人 100081363  
弁理士 高田 修治  
(72) 発明者 吉條 典秀  
大阪府大阪市平野区平野北1丁目5番19号 株式会社システックキョーワ内  
(72) 発明者 辻野 淳市  
大阪府大阪市平野区平野北1丁目5番19号 株式会社システックキョーワ内

(54) 【発明の名称】 引戸用鎌錠

(57) 【要約】

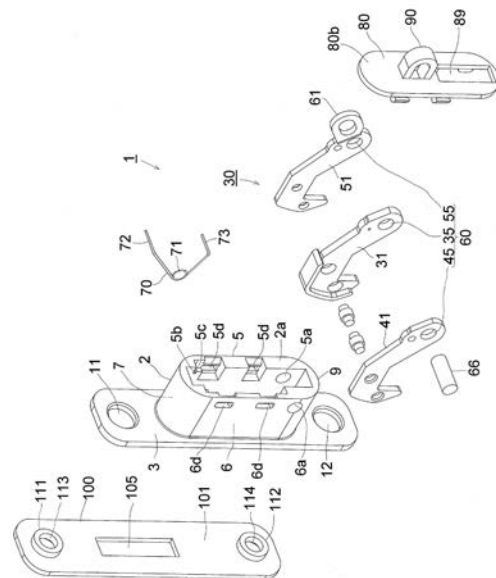
【課題】

構造が簡単で、組み立て易く、安価に製造できる引戸用鎌錠を提供する。

【解決手段】

引戸用鎌錠 1 は、後部 2 a が開放されたケース本体 2 と、ケース本体 2 内に回転軸 6 6 により回転可能に設けられた鎌体 3 0 と、鎌体 3 0 の鎌部 4 0 を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材 7 0 と、鎌体 3 0 に形成された操作片 6 1 とからなる。鎌体 3 0 は、ケース本体 2 の後部 2 a から差し込んで、ケース本体 2 の右及び左側壁 5 , 6 側の軸受け部 5 a , 6 a に回転軸 6 6 の両側を取り付けてケース本体 2 に設けられている。

【選択図】 図 3



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

後部が開放されたケース本体と、

ケース本体の前壁に形成された前開口と、

ケース本体内に回動軸により回動可能に設けられ、鎌部が前壁の前開口を介して非係止位置と係止位置に移動可能な鎌体と、

ケース本体内に設けられ、前記鎌体の鎌部を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材と、

前記鎌体に設けられ、ケース本体の開放された後部から突出し、前記鎌部を弾性部材の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させる操作片と  
10

からなり、  
ケース本体の右及び左側壁側には、前記鎌体の回動軸の両側を回動可能に軸受けする軸受け部が形成され、

前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け部に回動軸の両側を取り付けてケース本体に設けられていることを特徴とする引戸用鎌錠。

**【請求項 2】**

前記鎌体には、前記回動軸を挿通する挿通孔が形成され、

前記軸受け部は、ケース本体の右及び左側壁側に形成された軸受け孔であって、

前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け孔と鎌体の挿通孔に回動軸を挿通してケース本体に設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の引戸用鎌錠。  
20

**【請求項 3】**

前記軸受け部は、ケース本体の右及び左側壁側に形成された軸受け凹部であって、

前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け凹部に回動軸の両側を挿設してケース本体に設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の引戸用鎌錠。

**【請求項 4】**

前記ケース本体は、合成樹脂により一体成形されていることを特徴とする請求項 1、2 又は 3 記載の引戸用鎌錠。

**【発明の詳細な説明】**

30

**【技術分野】****【0001】**

本発明は、引戸に取り付けられ、引戸の閉塞時に鎌部を突出させて取付枠の受け具に係合させ、引戸の開放を規制する引戸用鎌錠に関する。

**【背景技術】****【0002】**

従来の引戸用鎌錠は、左側面が開放された矩形状のケース本体と、ケース本体の開放された左側面に着脱可能に取り付けられ、開放された左側面を塞ぐ左側壁部材と、ケース本体の前壁に形成された前開口と、ケース本体の右側壁に固定された支軸に回動可能に設けられ、鎌部が非係止位置と係止位置に移動可能な鎌体と、前記鎌体の鎌部を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材と、前記右側壁に設けられ、前記鎌部を弾性部材の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させる操作部材とからなる。(例えば、特許文献 1)。この従来の引戸用鎌錠は、ケース本体の左側壁部材を外しておき、ケース本体の右側壁に固定された支軸に鎌体を回動可能に取り付け、その後、ケース本体に左側壁部材を固定して組み立てる。  
40

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開平 10 - 61282 号公報

**【発明の概要】**

50

**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上記した従来の引戸用鎌錠は、組み立てに手間がかかり、部品点数も多く、安価に製造できないという問題点があった。本願発明は、上記問題点に鑑み案出したものであって、構造が簡単で部品点数が少なく、組み立てが容易で、安価に製造できる引戸用鎌錠を提供することを目的とする。

**【課題を解決するための手段】****【0005】**

本願請求項1記載の引戸用鎌錠は、上記目的を達成するため、後部が開放されたケース本体と、ケース本体の前壁に形成された前開口と、ケース本体内に回動軸により回動可能に設けられ、鎌部が前壁の前開口を介して非係止位置と係止位置に移動可能な鎌体と、ケース本体内に設けられ、前記鎌体の鎌部を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材と、前記鎌体に設けられ、ケース本体の開放された後部から突出し、前記鎌部を弾性部材の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させる操作片とからなり、ケース本体の右及び左側壁側には、前記鎌体の回動軸の両側を回動可能に軸受けする軸受け部が形成され、前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け部に回動軸の両側を取り付けてケース本体に設けられていることを特徴とする。

10

**【0006】**

本願請求項2記載の引戸用鎌錠は、上記目的を達成するため、前記鎌体には、前記回動軸を挿通する挿通孔が形成され、前記軸受け部は、ケース本体の右及び左側壁側に形成された軸受け孔であって、前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け孔と鎌体の挿通孔に回動軸を挿通してケース本体に設けられていることを特徴とする。

20

**【0007】**

本願請求項3記載の引戸用鎌錠は、上記目的を達成するため、前記軸受け部は、ケース本体の右及び左側壁側に形成された軸受け凹部であって、前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け凹部に回動軸の両側を挿設してケース本体に設けられていることを特徴とする。

**【0008】**

本願請求項4記載の引戸用鎌錠は、上記目的を達成するため、前記ケース本体は、合成樹脂により一体成形されていることを特徴とする。

30

**【発明の効果】****【0009】**

本願発明に係る引戸用鎌錠は、後部が開放されたケース本体と、ケース本体の前壁に形成された前開口と、ケース本体内に回動軸により回動可能に設けられ、鎌部が前壁の前開口を介して非係止位置と係止位置に移動可能な鎌体と、ケース本体内に設けられ、前記鎌体の鎌部を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材と、前記鎌体に設けられ、ケース本体の開放された後部から突出し、前記鎌部を弾性部材の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させる操作片とからなる。ケース本体の右及び左側壁側には、前記鎌体の回動軸の両側を回動可能に軸受けする軸受け部が形成されている。前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け部に回動軸の両側を取り付けてケース本体に設けられている。

40

**【0010】**

本願発明に係る引戸用鎌錠は、鎌体をケース本体の開放された後部から差し込み、ケース本体の軸受け部に回動軸の両側を取り付けるだけでケース本体に鎌体を簡単に取り付けることができるという効果がある。本願発明に係る引戸用鎌錠は、鎌体がケース本体内に回動軸により回動可能に設けられると、操作片がケース本体の開放された後部から突出する。鎌体は、弾性部材によって、鎌部が非係止位置と係止位置で位置決めされる。操作片を操作することにより、鎌体の鎌部を弾性部材の弾性に抗して非係止位置から係止位置及

50

び係止位置から非係止位置に移動させることができる。このように、本願発明に係る引戸用鎌錠は、構造が簡単で、部品点数が少なく、簡単に組み立てることができ、安価に製造することができるという効果がある。

【0011】

本願発明に係る引戸用鎌錠は、前記鎌体に、前記回動軸を挿通する挿通孔が形成されている。また、前記軸受け部は、ケース本体の右及び左側壁側に形成された軸受け孔である。前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け孔と鎌体の挿通孔に回動軸を挿通してケース本体に設けられている。

【0012】

本願発明に係る引戸用鎌錠は、上記効果に加え、鎌体をケース本体の開放された後部から差し込み、ケース本体の前記軸受け孔と鎌体の挿通孔に回動軸を挿通してケース本体に鎌体を簡単に取り付けることができるという効果がある。

10

【0013】

本願発明に係る引戸用鎌錠は、前記軸受け部が、ケース本体の右及び左側壁側に形成された軸受け凹部である。前記鎌体は、ケース本体の後部から差し込んで、ケース本体の前記軸受け凹部に回動軸の両側を挿設してケース本体に設けられている。

【0014】

本願発明に係る引戸用鎌錠は、上記効果に加え、鎌体をケース本体の開放された後部から差し込むと、鎌体に設けられた回動軸の両側がケース本体の右及び左側壁側に形成された軸受け凹部に回動可能に軸受けされる。このように鎌体をケース本体の後部から差し込むだけで、鎌体をケース本体に簡単に取り付けることができるという効果がある。

20

【0015】

本願発明に係る引戸用鎌錠は、前記ケース本体が、合成樹脂により一体成形されているので、強度を十分備えており、部品点数が少なくなるため、安価で組み立て易いという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本願発明に係る引戸用鎌錠の一つの形態を示す全体斜視図である。

【図2】図1の引戸用鎌錠の一方からみた分解斜視図である。

【図3】図1の引戸用鎌錠の他方からみた分解斜視図である。

30

【図4】図1の引戸用鎌錠の動きを説明する説明図であって、(a)が鎌部がケース本体内に位置する側面図、(b)が鎌部が前壁の前開口から突出する側面図である。

【図5】図1の引戸用鎌錠が引戸に取り付けられ、鎌部がケース本体内に位置する状態の側面図である。

【図6】図1の引戸用鎌錠が引戸に取り付けられ、鎌部が前壁の前開口から突出した状態の側面図である。

【図7】本願発明に係る引戸用鎌錠の他の形態を示す全体斜視図である。

【図8】図7の引戸用鎌錠の一方からみた分解斜視図である。

【図9】図7の引戸用鎌錠の他方からみた分解斜視図である。

【図10】図7の引戸用鎌錠の説明図であって、(a)が前面図、(b)が後面図、(c)が後壁部材を外した後面図、(d)がX-X断面図である。

40

【発明を実施するための形態】

【0017】

本願発明に係る引戸用鎌錠の概要について説明する。図2, 8に示すように、引戸用鎌錠1, 21は、後部2a, 22aが開放されたケース本体2, 22と、ケース本体2, 22の前壁3, 23に形成された前開口15, 23cと、ケース本体2, 22内に回動軸66, 67により回動可能に設けられ、鎌部40が前壁3, 23の前開口15, 23cを介して非係止位置と係止位置に移動可能な鎌体30と、ケース本体2, 22内に設けられ、前記鎌体30の鎌部40を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材70と、前記鎌体30に設けられ、ケース本体2, 22の開放された後部2a, 22aから突出し、前記

50

鎌部 40 を弾性部材 70 の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させる操作片 61 とからなる。ケース本体 2, 22 の右及び左側壁側 5, 25、6, 26 には、前記鎌体 30 の回動軸 66, 67 の両側を回動可能に軸受けする軸受け部 5a, 6a、25a, 26a が形成されている。前記鎌体 30 は、ケース本体 2, 22 の後部 2a, 22a から差し込んで、ケース本体 2, 22 の前記軸受け部 5a, 6a、25a, 26a に回動軸 66, 67 の両側を取り付けてケース本体 2, 22 に設けられている。

#### 【0018】

引戸用鎌錠 1, 21 は、鎌体 30 をケース本体 2, 22 の開放された後部 2a, 22a から差し込み、ケース本体 2, 22 の軸受け部 5a, 6a、25a, 26a に回動軸 66, 67 の両側を取り付けるだけでケース本体 2, 22 に鎌体 30 を簡単に取り付けることができる。引戸用鎌錠 1, 21 は、鎌体 30 がケース本体 2, 22 内に回動軸 66, 67 により回動可能に設けられると、操作片 61 がケース本体 2, 22 の開放された後部 2a, 22a から突出する。鎌体 30 は、弾性部材 70 によって、鎌部 40 が非係止位置と係止位置で位置決めされる。操作片 61 を操作することにより、鎌体 30 の鎌部 40 を弾性部材 70 の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させることができる。このように、引戸用鎌錠 1, 21 は、構造が簡単で、部品点数が少なく、簡単に組み立てることができる。

10

#### 【0019】

引戸用鎌錠 1 は、図 1 乃至 3 に示すように、前記鎌体 30 に、前記回動軸 66 を挿通する挿通孔 60 が形成されている。また、前記軸受け部は、ケース本体 2 の右及び左側壁 5, 6 側に形成された軸受け孔 5a, 6a である。前記鎌体 30 は、ケース本体 2 の後部 2a から差し込んで、ケース本体 2 の前記軸受け孔 5a, 6a と鎌体 30 の挿通孔 60 に回動軸 66 を挿通してケース本体 2 に設けられている。

20

#### 【0020】

引戸用鎌錠 1 は、鎌体 30 をケース本体 2 の開放された後部 2a から差し込み、ケース本体 2 の前記軸受け孔 5a, 6a と鎌体 30 の挿通孔 60 に回動軸 66 を挿通してケース本体 2 に鎌体 30 を簡単に取り付けることができる。

#### 【0021】

引戸用鎌錠 21 は、図 7 乃至 9 に示すように、前記軸受け部が、ケース本体 22 の右及び左側壁 25, 26 側に形成された軸受け凹部 25a, 26a であっても良い。前記鎌体 30 は、ケース本体 22 の後部 22a から差し込んで、ケース本体 22 の前記軸受け凹部 25a, 26a に回動軸 67 の両側を挿設してケース本体 22 に設けられている。

30

#### 【0022】

引戸用鎌錠 21 は、鎌体 30 をケース本体 22 の開放された後部 22a から差し込むと、鎌体 30 に設けられた回動軸 67 の両側がケース本体 22 の右及び左側壁 25, 26 側に形成された軸受け凹部 25a, 26a に回動可能に軸受けされる。このように鎌体 30 をケース本体 22 の後部 22a から差し込むだけで、鎌体 30 をケース本体 22 に簡単に取り付けることができる。なお、回動軸 67 は、バネを内蔵し、バネによって軸方向外側に付勢された伸縮軸であっても良い。このように回動軸 67 は、伸縮可能な構成にすると、鎌体 30 をケース本体 22 の後部 22a から差し込む際、バネの弾性に抗して縮めて右側壁 25 と左側壁 26 間に押し込むことができ、軸受け凹部 25a, 26a の位置でバネの弾性により伸びて両側が軸受け凹部 25a, 26a に係合して軸受けされる。

40

#### 【0023】

なお、引戸用鎌錠 1, 21 は、前記ケース本体 2, 22 が合成樹脂により一体成形されているので、強度を十分備えており、部品点数が少なくなるため、安価で組み立て易い。

#### 【0024】

さらに、本願発明に係る引戸用鎌錠の概要について説明する。引戸用鎌錠 1 は、図 1 乃至 3 に示すように、後部 2a が開放されたケース本体 2 と、ケース本体 2 の前壁 3 に形成された前開口 15 と、ケース本体 2 内に回動軸 66 により回動可能に設けられ、鎌部 40

50

が前壁 3 の前開口 1 5 を介して非係止位置と係止位置に移動可能な鎌体 3 0 と、ケース本体 2 内に設けられ、前記鎌体 3 0 の鎌部 4 0 を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材 7 0 と、前記鎌体 3 0 に設けられ、ケース本体 2 の開放された後部 2 a から突出し、前記鎌部 4 0 を弾性部材 7 0 の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させる操作片 6 1 とからなる。

【 0 0 2 5 】

鎌体 3 0 には、回動軸 6 6 を挿通する挿通孔 6 0 が形成されている。ケース本体 2 の右及び左側壁 5 , 6 側には、鎌体 3 0 の挿通孔 6 0 に挿通された回動軸 6 6 の両側を回動可能に軸受けする軸受け孔 5 a , 6 a が形成されている。鎌体 3 0 は、ケース本体 2 の後部 2 a から差し込んでから、ケース本体 2 の前記軸受け孔 5 a , 6 a と鎌体 3 0 の挿通孔 6 0 に回動軸 6 6 を挿通してケース本体 2 に取り付けられている。

10

【 0 0 2 6 】

引戸用鎌錠 1 は、鎌体 3 0 とケース本体 2 との間に弾性部材 7 0 を設けるようにして、鎌体 3 0 をケース本体 2 の開放された後部 2 a から差し込み、ケース本体 2 の前記軸受け孔 5 a , 6 a と鎌体 3 0 の挿通孔 6 0 に回動軸 6 6 を挿通してケース本体 2 に鎌体 3 0 を簡単に取り付けることができる。引戸用鎌錠 1 は、鎌体 3 0 がケース本体 2 内に回動軸 6 6 により回動可能に設けられると、操作片 6 1 がケース本体 2 の開放された後部 2 a から突出する。鎌体 3 0 は、弾性部材 7 0 によって、鎌部 4 0 が非係止位置と係止位置で位置決めされる。操作片 6 1 を操作することにより、鎌体 3 0 の鎌部 4 0 を弾性部材 7 0 の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させることができる。このように、引戸用鎌錠 1 は、構造が簡単で、部品点数が少なく、簡単に組み立てることができる。

20

【 0 0 2 7 】

引戸用鎌錠 1 は、前記ケース本体 2 の後部 2 a に、後部 2 a 開放を塞ぐ後壁部材 8 0 が着脱可能に取り付けられている。後壁部材 8 0 には、鎌体 3 0 の操作片 6 1 を突出させる後開口 8 9 が形成されている。引戸用鎌錠 1 は、開放されたケース本体 2 の後部 2 a が後壁部材 8 0 によって塞がれるので、ケース本体 2 内に塵・埃が入り込むのを防ぐことができる。

【 0 0 2 8 】

引戸用鎌錠 1 は、前記ケース本体 2 の右又は左側壁 5 , 6 側に、鎌体 3 0 に一端 7 3 が係止された弾性部材 7 0 の他端 7 2 を係止する係止凹部 5 b , 6 b を形成しても良い。引戸用鎌錠 1 は、この係止凹部 5 b , 6 b を形成することにより、後壁部材 8 0 のケース本体 2 への取付時に、後壁部材 8 0 が前記係止凹部 5 b , 6 b を塞ぎ、係止凹部 5 b , 6 b から弾性部材 7 0 の他端 7 2 が外れるのを阻止することができ、さらに、弾性部材 7 0 の他端 7 2 の着脱を容易にすることができる。

30

【 0 0 2 9 】

引戸用鎌錠 1 は、後壁部材 8 0 に、ケース本体 2 への取付時に、前記係止凹部 5 b , 6 b を塞ぎ、係止凹部 5 b , 6 b から弾性部材 7 0 の他端 7 2 が外れるのを阻止する阻止凸部 8 7 , 8 8 を設けても良い。引戸用鎌錠 1 は、この阻止凸部 8 7 , 8 8 を設けることにより、係止凹部 5 b , 6 b を深く形成でき、弾性部材 7 0 の他端 7 2 の位置を後壁部材 8 0 側よりも前壁 3 側に設定することができる。

40

【 0 0 3 0 】

引戸用鎌錠 2 1 は、図 7 乃至 9 に示すように、後部 2 2 a が開放されたケース本体 2 2 と、ケース本体 2 2 の後部 2 2 a に着脱可能に取り付けられ、後部 2 2 a 開放を塞ぐ後壁部材 9 1 と、ケース本体 2 2 の前壁 2 3 及び後壁部材 9 1 に形成された前開口 2 3 c 及び後開口 9 1 c と、ケース本体 2 2 内に回動軸 6 7 により回動可能に設けられ、鎌部 4 0 が前壁 2 3 の前開口 2 3 c を介して非係止位置と係止位置に移動可能な鎌体 3 0 と、ケース本体 2 2 内に設けられ、前記鎌体 3 0 の鎌部 4 0 を非係止位置と係止位置で位置決めする弾性部材 7 0 と、前記鎌体 3 0 に設けられ、後壁部材 9 1 の後開口 9 1 c から突出し、前記鎌部 4 0 を弾性部材 7 0 の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係

50

止位置に移動させる操作片 6 1 とからなる。

【 0 0 3 1 】

ケース本体 2 2 の右及び左側壁 2 5 , 2 6 側には、ケース本体 2 2 の後部 2 2 a から差し込んだ鎌体 3 0 の回動軸 6 7 の両側を回動可能に軸受けする軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a が形成されている。後壁部材 9 1 は、ケース本体 2 2 への取付時に、前記右及び左側壁 2 5 , 2 6 側の軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a を塞ぎ、軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a からの回動軸 6 7 の離脱を防止する。

【 0 0 3 2 】

引戸用鎌錠 2 1 は、鎌体 3 0 とケース本体 2 2 との間に弾性部材 7 0 を設けるようにして、鎌体 3 0 をケース本体 2 2 の開放された後部 2 2 a から差し込むと、鎌体 3 0 に設けられた回動軸 6 7 の両側がケース本体 2 2 の右及び左側壁 2 5 , 2 6 側に形成され軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a に回動可能に軸受けされる。このように鎌体 3 0 をケース本体 2 2 の後部 2 2 a から差し込むだけで、鎌体 3 0 をケース本体 2 2 に簡単に取り付けることができる。また、ケース本体 2 2 の開放された後部 2 2 a に後壁部材 9 1 を取り付けて塞ぐと、後壁部材 9 1 が前記右及び左側壁 2 5 , 2 6 側の軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a を塞ぎ、軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a からの回動軸 6 7 の離脱を防止することができる。

10

【 0 0 3 3 】

引戸用鎌錠 2 1 は、鎌体 3 0 がケース本体 2 2 内に回動軸 6 7 により回動可能に設けられると、操作片 6 1 が後壁部材 9 1 の後開口 9 1 c から突出する。鎌体 3 0 は、弾性部材 7 0 によって、鎌部 4 0 が非係止位置と係止位置で位置決めされる。操作片 6 1 を操作することにより、鎌体 3 0 の鎌部 4 0 を弾性部材 7 0 の弾性に抗して非係止位置から係止位置及び係止位置から非係止位置に移動させることができる。このように、引戸用鎌錠 2 1 は、構造が簡単で、部品点数が少なく、簡単に組み立てることができ、安価に製造することができる。

20

【 0 0 3 4 】

引戸用鎌錠 2 1 は、後壁部材 9 1 に、ケース本体 2 2 への取付時に、前記右及び左側壁 2 5 , 2 6 側の軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a を塞ぎ、軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a からの回動軸 6 7 の離脱を防止する一对の防止凸部 9 5 , 9 6 を設けても良い。引戸用鎌錠 2 1 は、この一对の防止突起 9 5 , 9 6 を設けることにより、軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a を深く形成でき、鎌体 3 0 の回動軸 6 7 の位置を後壁部材 9 1 側よりも前壁 2 3 側に設定することができる。

30

【 0 0 3 5 】

引戸用鎌錠 2 1 は、前記ケース本体 2 2 の右又は左側壁 2 5 , 2 6 側に、鎌体 3 0 に一端 7 3 が係止された弾性部材 7 0 の他端 7 2 を係止する係止凹部 2 5 c , 2 6 c を形成しても良い。引戸用鎌錠 2 1 は、この係止凹部 2 5 c , 2 6 c を形成することにより、後壁部材 9 1 のケース本体 2 2 への取付時に、後壁部材 9 1 が前記係止凹部 2 5 c , 2 6 c を塞ぎ、係止凹部 2 5 c , 2 6 c から弾性部材 7 0 の他端 7 2 が外れるのを阻止することができ、さらに、弾性部材 7 0 の他端 7 2 の着脱を容易にすることができる。

【 0 0 3 6 】

引戸用鎌錠 2 1 は、後壁部材 9 1 に、ケース本体 2 2 への取付時に、前記係止凹部 2 5 c , 2 6 c を塞ぎ、係止凹部 2 5 c , 2 6 c から弾性部材 7 0 の他端 7 2 が外れるのを阻止する阻止凸部 9 7 , 9 8 を設けても良い。引戸用鎌錠 2 1 は、この阻止凸部 9 7 , 9 8 を設けることにより、係止凹部 2 5 c , 2 6 c を深く形成でき、弾性部材 7 0 の他端 7 2 の位置を後壁部材 9 1 側よりも前壁 2 3 側に設定することができる。

40

【 0 0 3 7 】

さらに、引戸用鎌錠について詳細に説明する。図 1 乃至 3 に示すように、引戸用鎌錠 1 は、後部 2 a が開放されたケース本体 2 と、ケース本体 2 の開放された後部 2 a を塞ぐ後壁部材 8 0 と、ケース本体 2 内に回動可能に取り付けられる鎌体 3 0 を有する。

【 0 0 3 8 】

鎌体 3 0 は、三層構成となっており、中央に配置された鎌板バンパー 3 1 と、鎌板バン

50

パー 3 1 の左側に配置された左鎌板 4 1 と、鎌板バンパー 3 1 の右側に配置された右鎌板 5 1 とからなる。鎌板バンパー 3 1 は、ナイロン等の合成樹脂素材により一体成形され、バンパー本体 3 3 と、バンパー本体 3 3 の後部に形成された軸受け孔 3 5 と、バンパー本体 3 3 の先部が下方に折曲されて構成された掛止部 3 6 と、バンパー本体 3 3 の先端に略直角に設けられた所定幅のガード板 3 7 とからなる。バンパー本体 3 3 の軸受け孔 3 5 近傍には、パネ連結孔 3 4 が設けられている。又、バンパー本体 3 3 の先部側には、接続孔 3 8 , 3 9 が形成されている。

【 0 0 3 9 】

左鎌板 4 1 は、金属板で形成され、バンパー本体 3 3 と一部を除き、略同形状に形成され、後部に形成された軸受け孔 4 5 と、先部が下方に折曲されて構成された掛止部 4 6 とからなる。左鎌板 4 1 の軸受け孔 4 5 近傍には、パネ挿通孔 4 4 が設けられている。又、左鎌板 4 1 の先部側には、接続孔 4 8 , 4 9 が形成されている。接続孔 4 8 , 4 9 は、鎌板バンパー 3 1 の接続孔 3 8 , 3 9 より小径に形成されている。

10

【 0 0 4 0 】

右鎌板 5 1 は、左鎌板 4 1 と同様に金属板で形成され、左鎌板 4 1 と略同形状に形成され、後部に形成された軸受け孔 5 5 と、先部が下方に折曲されて構成された掛止部 5 6 とからなる。右鎌板 5 1 の軸受け孔 5 5 近傍には、パネ挿通孔 5 4 が設けられている。又、右鎌板 5 1 の先部側には、接続孔 5 8 , 5 9 が形成されている。接続孔 5 8 , 5 9 は、鎌板バンパー 3 1 の接続孔 3 8 , 3 9 より小径に形成されている。右鎌板 5 1 の後部上縁には、操作片 6 1 が一体で形成されている。操作片 6 1 は、折曲部 6 2 により右鎌板 5 1 に設けられている。操作片 6 1 には、指掛け孔 6 3 が形成されている。

20

【 0 0 4 1 】

鎌体 3 0 は、両側が小径の連結ピン 6 5 , 6 5 を鎌板バンパー 3 1 の接続孔 3 8 , 3 9 に差し込み、連結ピン 6 5 , 6 5 の両端に左鎌板 4 1 の接続孔 4 8 , 4 9 と右鎌板 5 1 の接続孔 5 8 , 5 9 を圧入することにより、鎌板バンパー 3 1 と左鎌板 4 1 と右鎌板 5 1 が重ねられて連結固定されて構成される。なお、連結ピン 6 5 , 6 5 から左鎌板 4 1 と右鎌板 5 1 が外れないように、連結ピン 6 5 , 6 5 の両端をかしめる等の変形をさせておくことが望ましい。図 4 に示すように、鎌板バンパー 3 1 のガード板 3 7 が左鎌板 4 1 と右鎌板 5 1 の先端を覆い保護する。又、鎌板バンパー 3 1 の先部側下部 3 2 が左鎌板 4 1 と右鎌板 5 1 の先部側下部 4 2 , 5 2 より突出し、左鎌板 4 1 と右鎌板 5 1 の先部側下部 4 2 , 5 2 を保護する。

30

【 0 0 4 2 】

鎌体 3 0 は、鎌板バンパー 3 1 と左鎌板 4 1 と右鎌板 5 1 の軸受け孔 3 5 , 4 5 , 5 5 に回動軸 6 6 が差し込まれ、回動軸 6 6 を中心として先部が上下方向に回動する。鎌体 3 0 は、鎌板バンパー 3 1 と左鎌板 4 1 と右鎌板 5 1 の軸受け孔 3 5 , 4 5 , 5 5 が重ねられて、鎌体 3 0 の挿通孔 6 0 を構成する。また、鎌体 3 0 は、鎌板バンパー 3 1 の掛止部 3 6 、左鎌板 4 1 の掛止部 4 6 、右鎌板 5 1 の掛止部 5 6 が重ね合わされて鎌体 3 0 の鎌部 4 0 を構成する。この鎌部 4 0 が、後述するように取付枠 B の受け具 C に係合する ( 図 5 参照 ) 。

【 0 0 4 3 】

ケース本体 2 は、合成樹脂により一体成形で形成され、前壁 3 と、右側壁 5 と、左側壁 6 と、湾曲した上壁 7 と、湾曲した下壁 9 とからなる。前壁 3 は、上壁 7 から上方に突出して上部開口 1 1 が形成され、また下壁 9 から下方に突出して下部開口 1 2 が形成されている。前壁 3 の略中央には、矩形状の前開口 1 5 が形成されている。

40

【 0 0 4 4 】

ケース本体 2 の後部 2 a 側下部には、前記鎌体 3 0 の回動軸 6 6 の両側を軸受けする軸受け孔 5 a , 6 a が形成されている。軸受け孔 5 a は右側壁 5 に形成され、軸受け孔 6 a は左側壁 6 に形成されている。前記鎌体 3 0 は、ケース本体 2 の後部 2 a から差し込んで、回動軸 6 6 を、左側壁 6 の軸受け孔 6 a 、鎌体 3 0 の挿通孔 6 0 、右側壁 5 の軸受け孔 5 a に挿入することにより、ケース本体 2 内に取り付けられる。

50

## 【 0 0 4 5 】

ケース本体 2 内の鎌体 3 0 と左側壁 6 の間に線状バネ部材 7 0 が配置される（図 1 0 (c) 参照）。線状バネ部材 7 0 は、巻回部 7 1 と、一方の端部に設けられた折曲部 7 3 と、他方の端部に設けられた折曲部 7 2 とからなる。ケース本体 2 の後部 2 a 側上部には、線状バネ部材 7 0 の他方の折曲部 7 2 側を軸受けする係止凹部 5 b , 6 b が形成されている。係止凹部 5 b , 6 b は、右側壁 5 及び左側壁 6 の内側面側に設けられている。係止凹部 5 b , 6 b は、略コ字状に形成され、開放部 5 c , 6 c がケース本体 2 の開放された後部 2 a 側に設けられている。

## 【 0 0 4 6 】

線状バネ部材 7 0 は、図 4 に示すように、一方の折曲部 7 3 を鎌体 3 0 のバネ挿通孔 4 4 を挿通して鎌板バンパー 3 1 のバネ連結孔 3 4 に連結し、他方の折曲部 7 2 をケース本体 2 の後部 2 a から係止凹部 5 b , 6 b に差し込んで係止させ、他方の折曲部 7 2 を係止凹部 5 b , 6 b に取り付けることにより、ケース本体 2 内に取り付けられる。このように、鎌体 3 0 及び線状バネ部材 7 0 は、ケース本体 2 の開放された後部 2 a から簡単に取り付けることができる。

10

## 【 0 0 4 7 】

後壁部材 8 0 は、図 2 , 3 に示すように、合成樹脂により一体成形で形成され、内面（ケース本体側の面）8 0 a 両側に一对の係止爪 8 2 , 8 3 が設けられている。ケース本体 2 を構成する右側壁 5 及び左側壁 6 の後部 2 a 側には、一对の係止孔 5 d , 6 d が設けられている。後壁部材 8 0 は、一对の係止爪 8 2 , 8 3 を、ケース本体 2 の係止孔 5 d , 6 d に着脱可能に係止させることにより、ケース本体 2 の開放された後部 2 a を塞ぐようにしてケース本体 2 に取り付けられる。後壁部材 8 0 は、下部略中央に後開口 8 9 が形成されており、ケース本体 2 に取り付けられると、前記鎌体 3 0 の操作片 6 1 が後開口 8 9 から突出する。後壁部材 8 0 の外面 8 0 b には、ケース本体 2 から後壁部材 8 0 を離脱し易くするため、略 U 字状の摘み 9 0 が形成されている。

20

## 【 0 0 4 8 】

後壁部材 8 0 の内面 8 0 a には、ケース本体 2 への取付時に、前記右側壁 5 の係止凹部 5 b を塞ぎ、係止凹部 5 b から線状バネ部材 7 0 の他方の折曲部 7 2 が外れるのを阻止する右阻止凸部 8 7 と、前記左側壁 6 の係止凹部 6 b を塞ぎ、係止凹部 6 b から線状バネ部材 7 0 の他方の折曲部 7 2 が外れるのを阻止する左阻止凸部 8 8 が設けられている。

30

## 【 0 0 4 9 】

上記した引戸用鎌錠 1 は、次のようにして組み立てることができる。鎌体 3 0 をケース本体 2 の後部 2 a 側から差し込む。回動軸 6 6 を、左側壁 6 の軸受け孔 6 a、鎌体 3 0 の挿通孔 6 0、右側壁 5 の軸受け孔 5 a に挿入して、鎌体 3 0 をケース本体 2 内に回動可能に取り付ける。鎌体 3 0 の左鎌板 4 1 側面に線状バネ部材 7 0 を配置する。線状バネ部材 7 0 の一方の折曲部 7 3 を鎌体 3 0 のバネ挿通孔 4 4 を挿通して鎌板バンパー 3 1 のバネ連結孔 3 4 に連結する。線状バネ部材 7 0 の他方の折曲部 7 2 をケース本体 2 の係止凹部 5 b , 6 b に差し込む。後壁部材 8 0 の一对の係止爪 8 2 , 8 3 をケース本体 2 の一对の係止孔 5 d , 6 d に着脱可能に係止させて後壁部材 8 0 をケース本体 2 に取り付ける。後壁部材 8 0 は、ケース本体 2 に押し付けるだけのワンタッチ作業で簡単に取り付けることができる。このように、引戸用鎌錠 1 は、簡単に組み立てることができる。

40

## 【 0 0 5 0 】

引戸用鎌錠 1 は、図 5 に示すように、引戸 A に取り付けられる。前壁 3 の上部開口 1 1 及び下部開口 1 2 に皿ネジ E 等を挿通して引戸 A に取り付ける。なお、この取り付けの際して、補強プレート 1 0 0 を利用しても良い。図 2 , 3 に示すように、補強プレート 1 0 0 は、金属板によって前壁 3 と略同形状に形成され、前壁 3 の前開口 1 5 と同じ位置に補強開口 1 0 5 が形成されている。

## 【 0 0 5 1 】

また、補強プレート 1 0 0 は、内面 1 0 1 上部に前壁 3 の上部開口 1 1 に嵌合する上部嵌合突起 1 1 1 が形成され、また内面 1 0 1 下部に前壁 3 の下部開口 1 2 に嵌合する下部

50

嵌合突起 1 1 2 が形成されている。上部嵌合突起 1 1 1 及び下部嵌合突起 1 1 2 は、ネジ挿通孔 1 1 3 , 1 1 4 が形成され、外面 1 0 2 側にネジ挿通孔 1 1 3 , 1 1 4 と連続するテーパ面 1 1 5 , 1 1 6 が設けられている。

【 0 0 5 2 】

図 1 に示すように、補強プレート 1 0 0 は、上部嵌合突起 1 1 1 を前壁 3 の上部開口 1 1 に嵌合し、下部嵌合突起 1 1 2 を前壁 3 の下部開口 1 2 に嵌合すると前壁 3 の前面に取り付けられる。図 5 に示すように、引戸用鎌錠 1 は、補強プレート 1 0 0 のネジ挿通孔 1 1 3 , 1 1 4 に皿ネジ E 等を挿通して引戸 A に取り付けることができる。皿ネジ E の頭部は、テーパ面 1 1 5 , 1 1 6 内に納められ、補強プレート 1 0 0 の外面 1 0 2 から突出しない。前壁 3 は、合成樹脂素材によって形成されているので、この補強プレート 1 0 0 がネジ止めの際の補強になる。また、補強プレート 1 0 0 は、化粧板としても利用することができる。

10

【 0 0 5 3 】

引戸用鎌錠 1 は、上記したように引戸 A に取り付けられ、引戸 A を開放している時には、線状バネ部材 7 0 の弾性により、鎌体 3 0 がケース本体 2 内に収納されており、鎌体 3 0 の鎌部 4 0 が非係止位置で位置決めされている。図 6 に示すように、引戸 A を閉塞し、鎌体 3 0 の操作片 6 1 を線状バネ部材 7 0 の弾性に抗して押し上げる。鎌部 4 0 は、回動軸 6 6 を中心として下方に下がり、前壁 3 の前開口 1 5 及び補強プレート 1 0 0 の補強開口 1 0 5 から突出し、取付枠 B に設けられた受け具 C の係止孔 D の下縁に係止可能となる。引戸用鎌錠 1 は、線状バネ部材 7 0 の弾性により、鎌体 3 0 の鎌部 4 0 がこの係止位置で位置決めされる。

20

【 0 0 5 4 】

鎌体 3 0 は、鎌板バンパー 3 1 の先部側下部 3 2 が左鎌板 4 1 の先部側下部 4 2 及び右鎌板 5 1 の先部側下部 5 2 より突出しているため、鎌板バンパー 3 1 の先部側下部 3 2 のみが前開口 1 5 、補強開口 1 0 5 及び係止孔 D の下縁に接触する。鎌板バンパー 3 1 は、合成樹脂によって形成されているため、鎌体 3 0 のみならず、前壁 3 の前開口 1 5 、補強プレート 1 0 0 の補強開口 1 0 5 及び受け具 C の係止孔 D を保護する。引戸 A は、鎌体 3 0 の鎌部 4 0 が取付枠 B の受け具 C の係止孔 D を係止しているため、開放することができない。

【 0 0 5 5 】

引戸 A を開放できるようにするには、引戸用鎌錠 1 は、図 5 に示すように、鎌体 3 0 の操作片 6 1 を線状バネ部材 7 0 の弾性に抗して押し下げる。鎌部 4 0 は、回動軸 6 6 を中心として上方に上がり、取付枠 B に設けられた受け具 C の係止孔 D の下縁から外れて非係止状態となり、前壁 3 の前開口 1 5 及び補強プレート 1 0 0 の補強開口 1 0 5 を介してケース本体 2 内に収納される。引戸用鎌錠 1 は、線状バネ部材 7 0 の弾性により、鎌体 3 0 の鎌部 4 0 がこの非係止位置で位置決めされる。

30

【 0 0 5 6 】

さらに、引戸用鎌錠の他の実施例について、図 7 乃至 1 0 に基づいて説明する。上記した引戸用鎌錠 1 は、鎌体 3 0 をケース本体 2 の開放された後部 2 a から差し込み、ケース本体 2 の軸受け孔 5 a , 6 a と鎌体 3 0 の挿通孔 6 0 に回動軸 6 6 を挿通してケース本体 2 に鎌体 3 0 を簡単に取り付けた。引戸用鎌錠 2 1 は、鎌体 3 0 をケース本体 2 2 の開放された後部 2 2 a 側から差し込んで、回動軸 6 7 の両端を軸受け凹部 2 5 a , 2 6 a に取り付けるようにした。引戸用鎌錠 2 1 は、後部 2 2 a が開放されたケース本体 2 2 と、ケース本体 2 2 の開放された後部 2 2 a を塞ぐ後壁部材 9 1 と、ケース本体 2 2 内に回動可能に取り付けられる前記鎌体 3 0 を有する。

40

【 0 0 5 7 】

鎌体 3 0 は、前述した通りなので説明を省略するが、挿通孔 6 0 に回動軸 6 7 が挿入されて取り付けられている。回動軸 6 7 は、前記回動軸 6 6 より短い。ケース本体 2 2 は、ケース本体 2 と同様に、合成樹脂により一体成形で形成され、前壁 2 3 と、右側壁 2 5 と、左側壁 2 6 と、湾曲した上壁 2 7 と、湾曲した下壁 2 9 とからなる。前壁 2 3 は、上壁

50

27から上方に突出して上部開口23aが形成され、また下壁29から下方に突出して下部開口23bが形成されている。前壁23の略中央には、矩形状の前開口23cが形成されている。

【0058】

ケース本体22の後部22a側下部には、前記鎌体30の回動軸67の両側を軸受けする軸受け凹部25a, 26aが形成されている。軸受け凹部25a, 26aは、右側壁25及び左側壁26の内側面側に設けられている。軸受け凹部25a, 26aは、略U字状に形成され、開放部25b, 26bがケース本体22の開放された後部22a側に設けられている。前記鎌体30は、回動軸67を後部22a側から差し込んで、回動軸67の両端を軸受け凹部25a, 26aに取り付けることにより、ケース本体22内に取り付けられる。

10

【0059】

ケース本体22の後部22a側上部には、線状バネ部材70の他端72側を軸受けする係止凹部25c, 26cが形成されている。係止凹部25c, 26cは、右側壁25及び左側壁26の内側面側に設けられている。係止凹部25c, 26cは、略コ字状に形成され、開放部25d, 26dがケース本体22の開放された後部22a側に設けられている。

【0060】

線状バネ部材70は、一方の折曲部73を鎌体30のバネ挿通孔44を挿通して鎌板バンパー31のバネ連結孔34に連結し、他方の折曲部72をケース本体22の後部22aから係止凹部25c, 26cに差し込んで、他方の折曲部72を係止凹部25c, 26cに取り付けることにより、ケース本体22内に取り付けられる。このように、鎌体30及び線状バネ部材70は、ケース本体22の開放された後部22aから簡単に取り付けることができる。

20

【0061】

後壁部材91は、後壁部材80と同様に合成樹脂により一体成形で形成され、内面(ケース本体側の面)91a両側に一对の係止爪92, 93が設けられている。ケース本体22を構成する右側壁25及び左側壁26の後部22a側には、一对の係止孔25e, 26eが設けられている。後壁部材91は、一对の係止爪92, 93を、ケース本体22の係止孔25e, 26eに着脱可能に係止させることにより、ケース本体22の開放された後部22aを塞ぐようにしてケース本体22に取り付けられる。後壁部材91は、下部略中央に後開口91cが形成されており、ケース本体22に取り付けられると、前記鎌体30の操作片61が後開口91cから突出する。

30

【0062】

後壁部材91の内面91aには、ケース本体22への取付時に、前記右側壁25の軸受け凹部25aを塞ぎ、軸受け凹部25aから鎌体30の回動軸67の離脱を防止する右防止凸部95と、前記左側壁26の軸受け凹部26aを塞ぎ、軸受け凹部26aから回動軸67の離脱を防止する左防止凸部96が設けられている。また、後壁部材91の内面91aには、ケース本体22への取付時に、前記右側壁25の係止凹部25cを塞ぎ、係止凹部25cから線状バネ部材70の他方の折曲部72が外れるのを阻止する右阻止凸部97と、前記左側壁26の係止凹部26cを塞ぎ、係止凹部26cから線状バネ部材70の他方の折曲部72が外れるのを阻止する左阻止凸部98が設けられている。

40

【0063】

上記した引戸用鎌錠21は、次のようにして組み立てることができる。鎌体30をケース本体22の後部22a側から差し込んで、回動軸67の両端を軸受け凹部25a, 26aに取り付ける。鎌体30の左鎌板41側面に線状バネ部材70を配置する。線状バネ部材70の一方の折曲部73を鎌体30のバネ挿通孔44を挿通して鎌板バンパー31のバネ連結孔34に連結する。線状バネ部材70の他方の折曲部72をケース本体22の係止凹部25c, 26cに差し込む。後壁部材91の一对の係止爪92, 93をケース本体22の係止孔25e, 26eに着脱可能に係止させ、後壁部材91をケース本体22に取り

50

付ける。後壁部材 9 1 は、ケース本体 2 2 に押し付けるだけのワンタッチ作業で簡単に取り付けることができる。このように、引戸用鎌錠 2 1 は、引戸用鎌錠 1 と同様に、簡単に組み立てることができる。

【 0 0 6 4 】

引戸用鎌錠 1 , 2 1 のケース本体 2 , 2 2 は、合成樹脂によって一体成形で形成されているので、強度を十分備えており、部品点数が少ないため、安価で組み立て易い。なお、引戸用鎌錠 1 , 2 1 は、合成樹脂によって一体成形で形成されているが、アルミ等による鋳造、金属板の折曲加工等により形成することができ、素材を変更することは当業者にとって設計事項である。

【 産業上の利用可能性 】

10

【 0 0 6 5 】

本願発明は、引戸に取り付けられ、引戸の開放を規制する引戸用鎌錠に利用可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 6 6 】

A 引戸

B 取付枠

C 受け具

D 係止孔

E 皿ネジ

20

1 引戸用鎌錠

2 ケース本体

2 a 後部

3 前壁

5 右側壁

5 a 軸受け孔

5 b 係止凹部

5 c 開放部

5 d 係止孔

6 左側壁

30

6 a 軸受け孔

6 b 係止凹部

6 c 開放部

6 d 係止孔

7 上壁

9 下壁

1 1 上部開口

1 2 下部開口

1 5 前開口

2 1 引戸用鎌錠

40

2 2 ケース本体

2 2 a 後部

2 3 前壁

2 3 a 上部開口

2 3 b 下部開口

2 3 c 前開口

2 5 右側壁

2 5 a 軸受け凹部

2 5 b 開放部

2 5 c 係止凹部

50

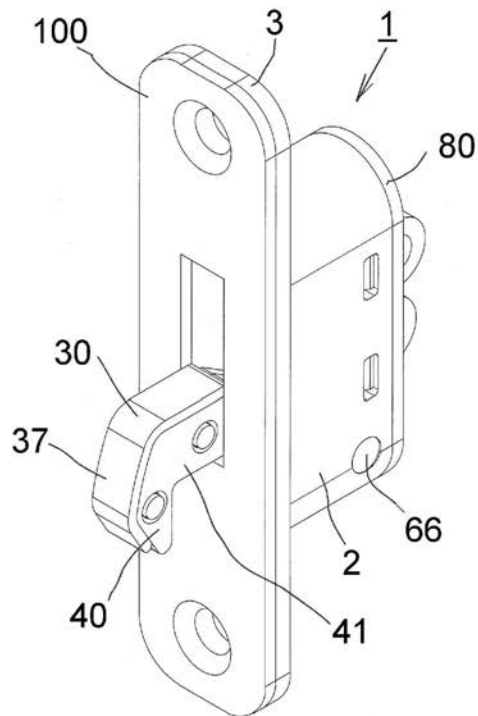
|       |                 |    |
|-------|-----------------|----|
| 2 5 d | 開放部             |    |
| 2 5 e | 係止孔             |    |
| 2 6   | 左側壁             |    |
| 2 6 a | 軸受け凹部           |    |
| 2 6 b | 開放部             |    |
| 2 6 c | 係止凹部            |    |
| 2 6 d | 開放部             |    |
| 2 6 e | 係止孔             |    |
| 2 7   | 上壁              |    |
| 2 9   | 下壁              | 10 |
| 3 0   | 鎌体              |    |
| 3 1   | 鎌板バンパー          |    |
| 3 2   | 先部側下部           |    |
| 3 3   | バンパー本体          |    |
| 3 4   | バネ連結孔           |    |
| 3 5   | 軸受け孔            |    |
| 3 6   | 掛止部             |    |
| 3 7   | ガード板            |    |
| 3 8   | 接続孔             |    |
| 3 9   | 接続孔             | 20 |
| 4 0   | 鎌部              |    |
| 4 1   | 左鎌板             |    |
| 4 2   | 先部側下部           |    |
| 4 4   | バネ挿通孔           |    |
| 4 5   | 軸受け孔            |    |
| 4 6   | 掛止部             |    |
| 4 8   | 接続孔             |    |
| 4 9   | 接続孔             |    |
| 5 1   | 右鎌板             |    |
| 5 2   | 先部側下部           | 30 |
| 5 4   | バネ挿通孔           |    |
| 5 5   | 軸受け孔            |    |
| 5 6   | 掛止部             |    |
| 5 8   | 接続孔             |    |
| 5 9   | 接続孔             |    |
| 6 0   | 挿通孔             |    |
| 6 1   | 操作片             |    |
| 6 2   | 折曲部             |    |
| 6 3   | 指掛け孔            |    |
| 6 5   | 連結ピン            | 40 |
| 6 6   | 回動軸             |    |
| 6 7   | 回動軸             |    |
| 7 0   | 線状バネ部材 ( 弾性部材 ) |    |
| 7 1   | 巻回部             |    |
| 7 2   | 折曲部 ( 他端 )      |    |
| 7 3   | 折曲部 ( 一端 )      |    |
| 8 0   | 後壁部材            |    |
| 8 0 a | 内面              |    |
| 8 0 b | 外面              |    |
| 8 2   | 係止爪             | 50 |

- 8 3 係止爪
- 8 7 右阻止凸部
- 8 8 左阻止凸部
- 8 9 後開口
- 9 0 摘み
- 9 1 後壁部材
- 9 1 a 内面
- 9 1 c 後開口
- 9 2 係止爪
- 9 3 係止爪
- 9 5 右防止凸部
- 9 6 左防止凸部
- 9 7 右阻止凸部
- 9 8 左阻止凸部
- 1 0 0 補強プレート
- 1 0 1 内面
- 1 0 2 外面
- 1 0 5 補強開口
- 1 1 1 上部嵌合突起
- 1 1 2 下部嵌合突起
- 1 1 3 ネジ挿通孔
- 1 1 4 ネジ挿通孔
- 1 1 5 テーパー面
- 1 1 6 テーパー面

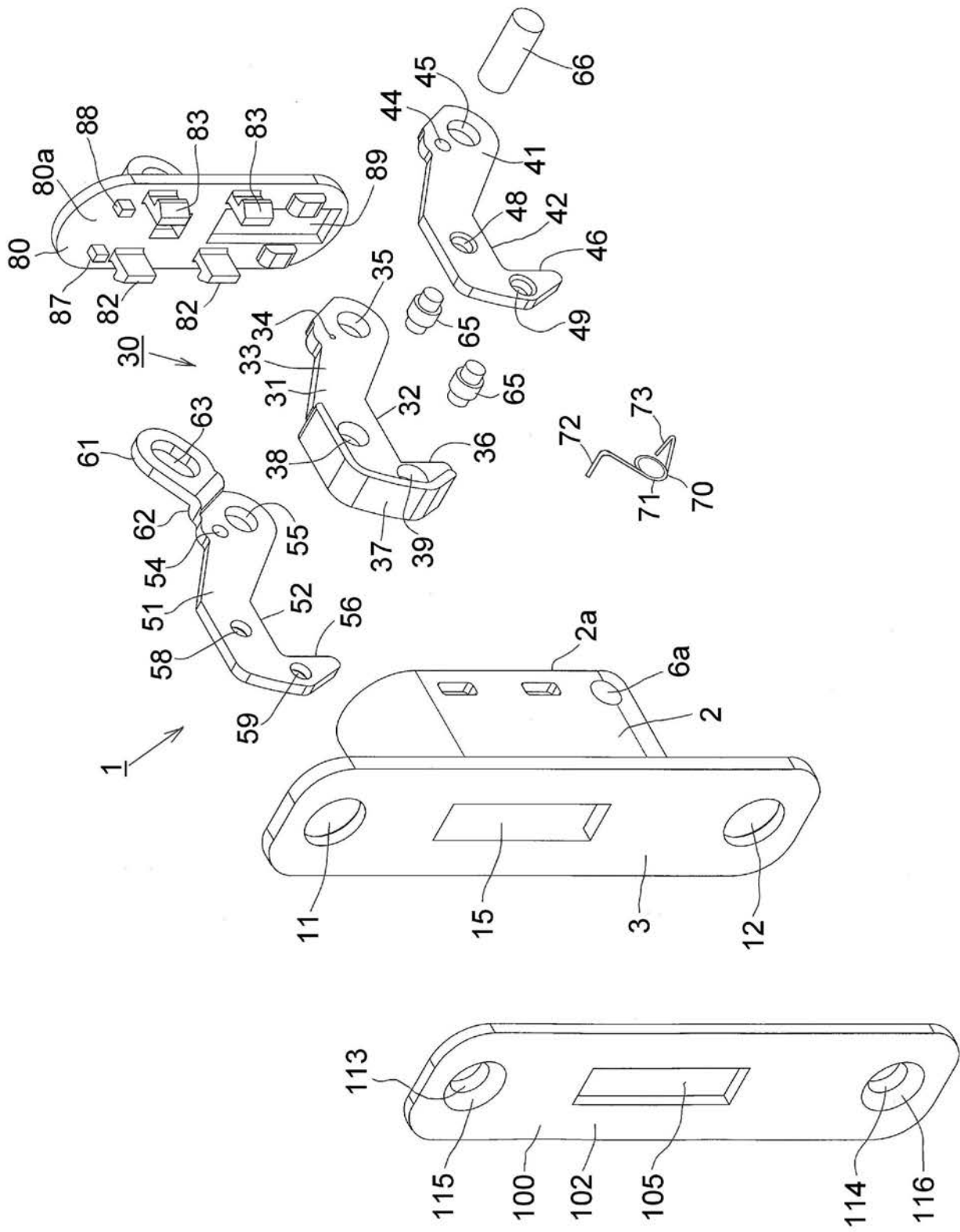
10

20

【図 1】

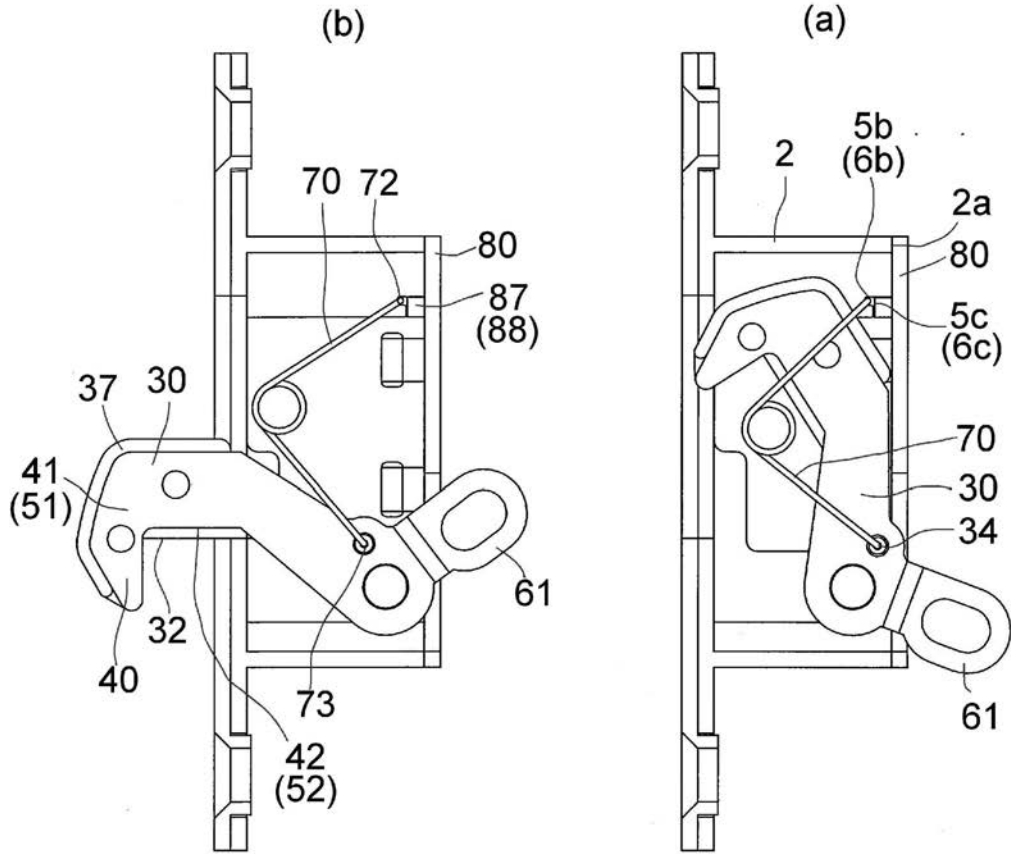


【図2】

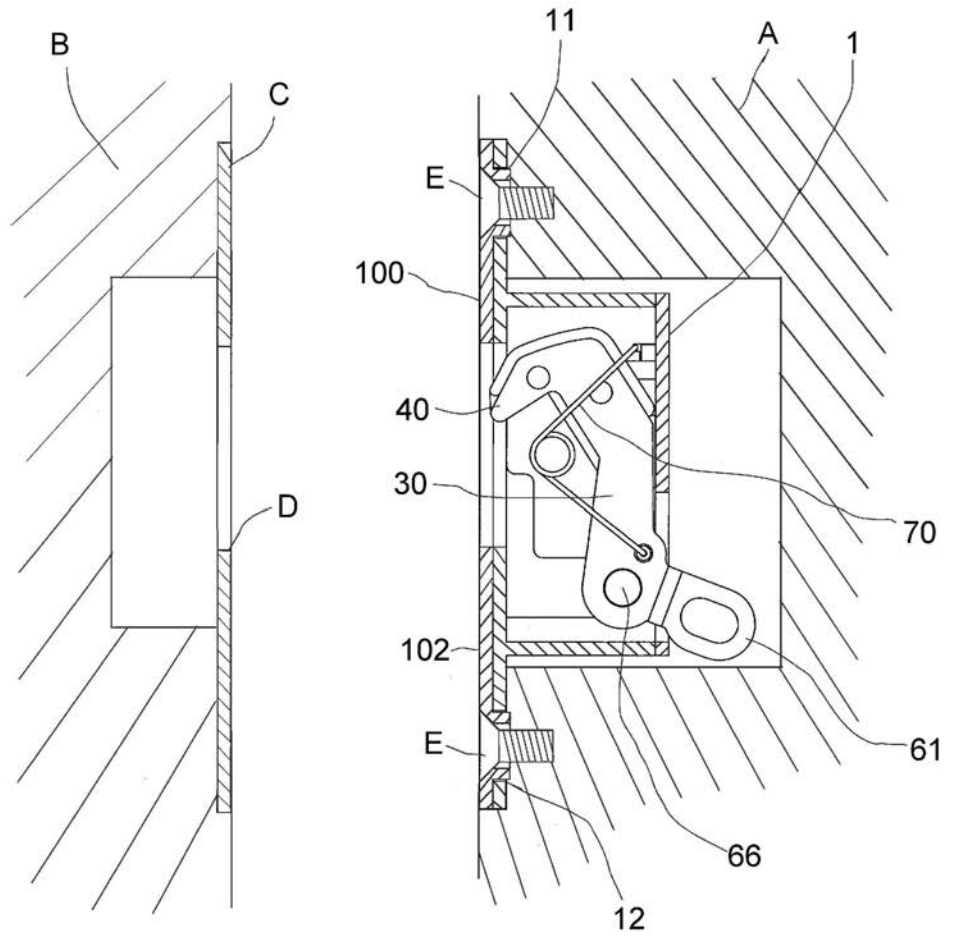




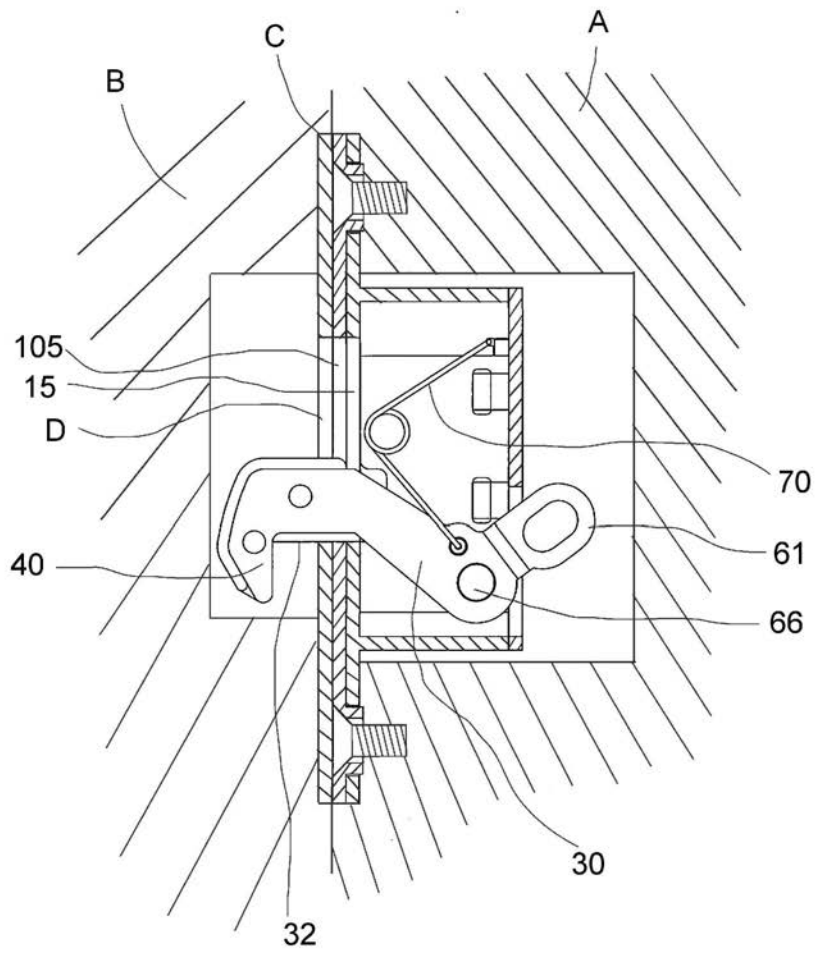
【 図 4 】



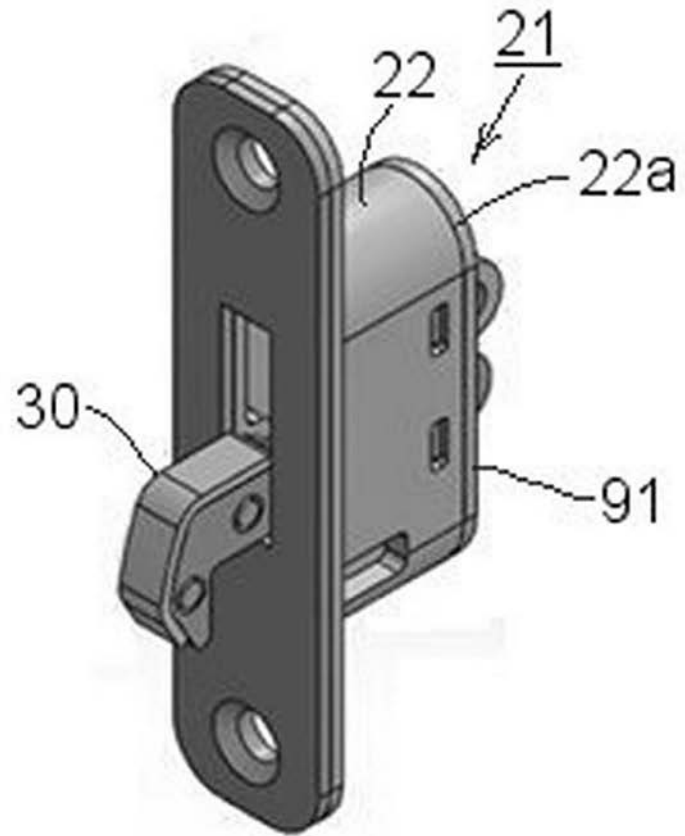
【図5】



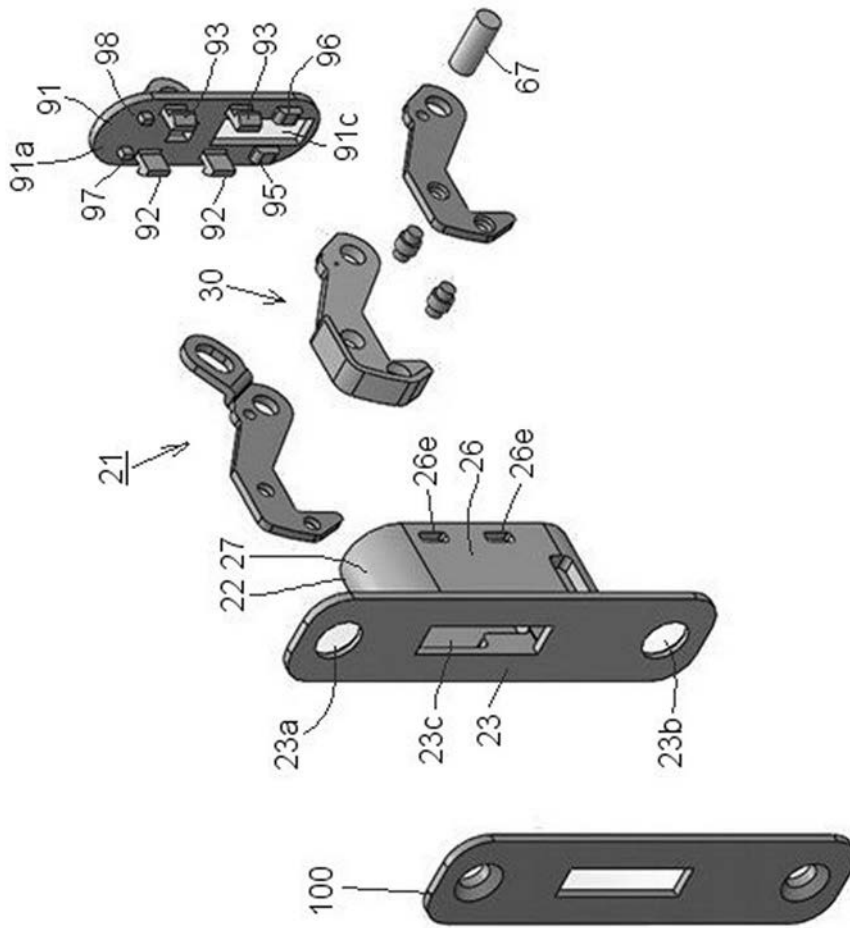
【 図 6 】



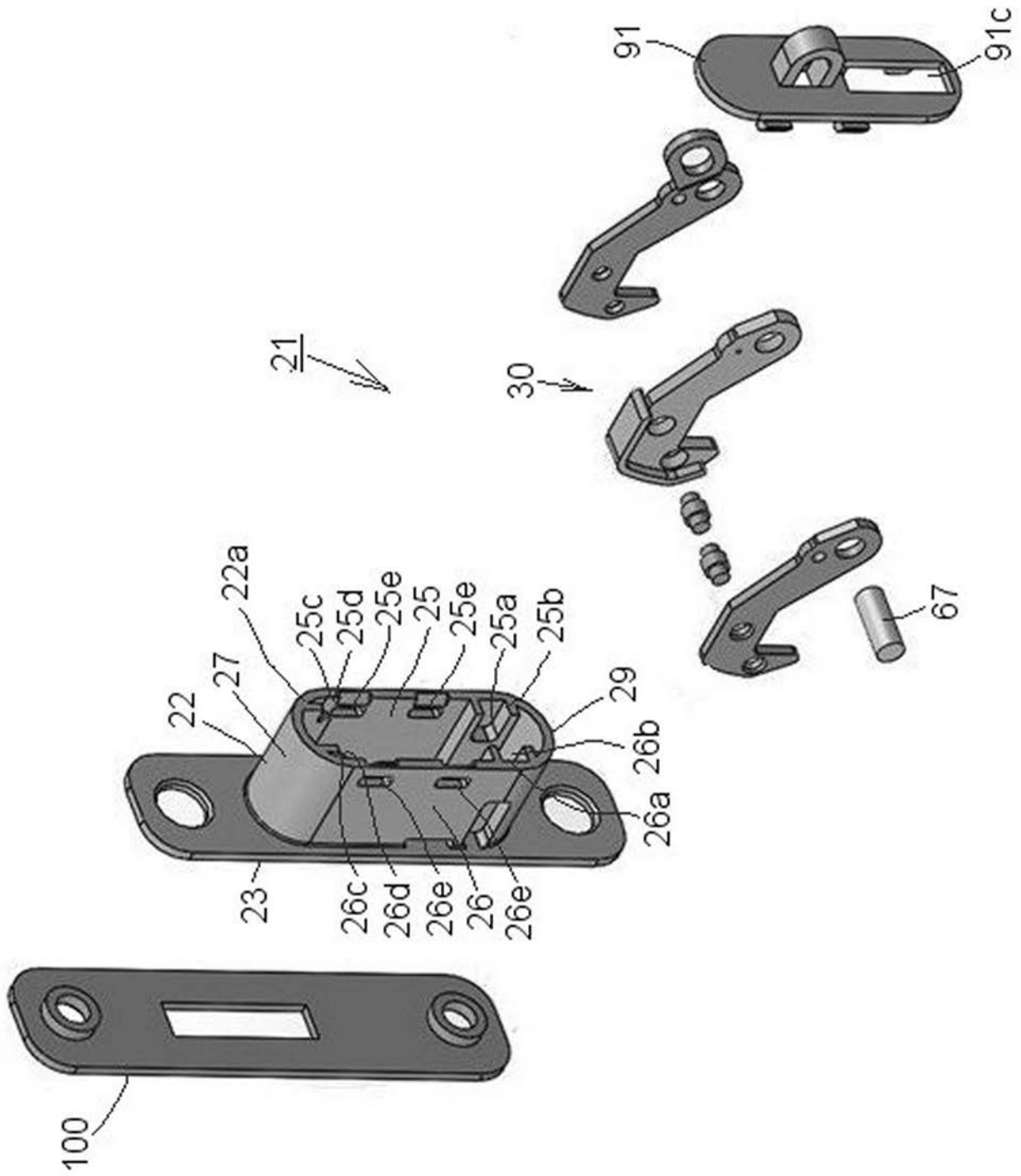
【 図 7 】



【 図 8 】



【 図 9 】



【 図 1 0 】

